

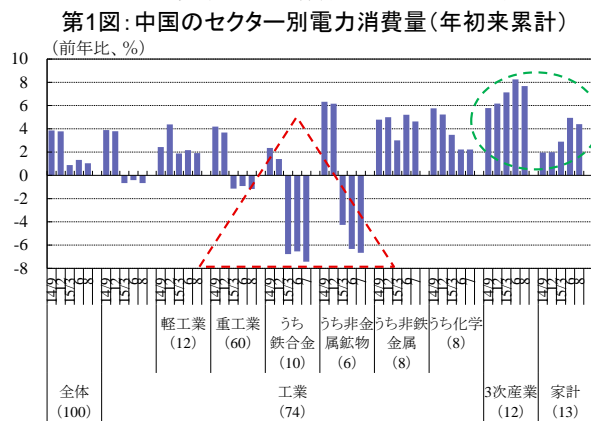
# 経済マンスリー [中国]

## 投資を中心に減速が続くなか、家計部門による下支えが継続

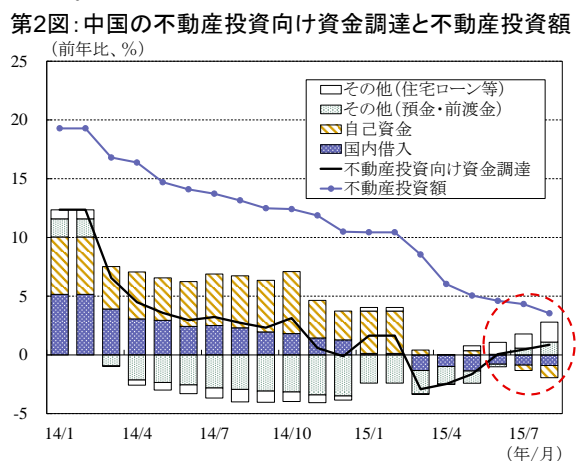
中国経済は減速が続いている。直近 8 月の月次経済指標をみると、固定資産投資（都市部、年初来累計）が前年比+10.9%（7 月：同+11.2%）へ一段と減速したほか、工業生産も同+6.1%（同+6.0%）と低水準にとどまった。生産は、資源安を背景に鉱業の減速が続いているほか、鉄鋼、自動車、コンピューター等の一部業種では、需要を上回るペースでの生産能力拡大により、生産・在庫バランスが悪化、輸入抑制を伴う在庫調整の途上にある。加えて、9 月初めの軍事パレードに向けた環境規制の影響<sup>(注)</sup>も重石になった可能性がある。他方、小売売上高は同+10.8%（同+10.5%）と小幅ながら加速。都市部を中心とした住宅販売の持ち直しを受けて住宅関連（家電製品、家具、建設資材）が増加したほか、高額商品（宝石、自動車）も伸びを高めるなど、株価下落後も家計消費は総じて安定を維持している。電力消費量も、鉄合金や非金属鉱物等の重工業での減速が全体を下押しする一方、第 3 次産業や家計は高めの伸びを維持し、景気を下支えしている様子が窺われる（第 1 図）。

先行きについても、重工業を中心とした過剰な資本ストックの調整に伴う景気への下押しが続くなか、家計部門による景気の下支えが続くとみられる。住宅市場では、高水準の在庫を抱える地方を中心に調整圧力は根強く、住宅投資の減速傾向が続いている（第 2 図）。但し、政府の梃入れ策や金融緩和等を受け、6 月以降、不動産投資向け資金調達が増え、住宅販売面積も 3 ヶ月連続で前年の水準を上回るなど一部で安定化の兆しも窺われる。また、家計消費も安定した雇用・所得環境を支えに底堅い伸びが見込まれる。加えて政府は、9 月に入り重要分野の建設促進のほか、地方政府の債務管理強化や資金調達支援等を通じて安定成長を目指す方針を示しており、インフラ投資を中心とした梃入れ強化も景気を下支えしよう。

(注) 9 月 3 日の軍事パレードに向けた大気汚染対策として、8 月 20 日から約 2 週間にわたり、北京周辺 7 省・自治区・直轄市（北京市、天津市、河北省、山西省、内モンゴル自治区、河南省、山東省）で鉄鋼、セメント、化学工業などを手掛ける約 1 万 2,000 社が生産停止や減産を余儀なくされたほか、約 9,000 ヶ所の工事現場で建設作業の停止などの対応を求められた。



(注) セクター名下の括弧内は全体に占めるシェア。  
(資料) 中国電力企業連合会統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(資料) 中国国家统计局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
福地 亜希 aki\_fukuchi@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。